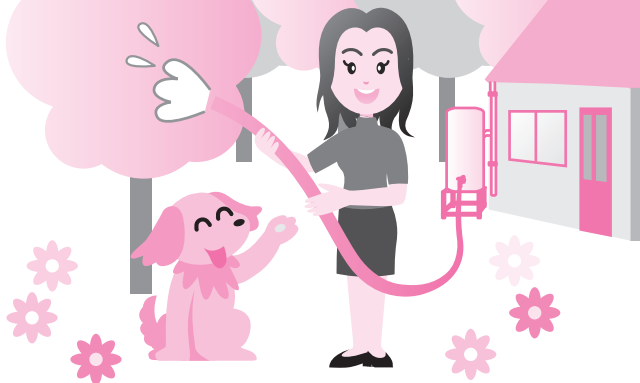
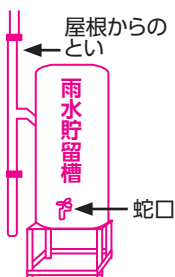


雨水貯留施設設置 助成金制度を利用してください

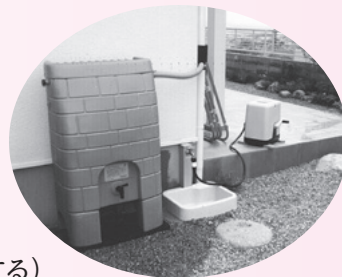
雨水貯留施設とは？

屋根からの雨水を貯留し、川や水路へ雨水が流出するのを一時的に抑えることが洪水対策になるとともに、雨水の有効利用（花や植木への散水や、夏場では打ち水など）ができるもので、節水にもつながります。



主な設置助成条件

- 市民であること
(国庫補助事業によるため公共下水道区域内であること)
- 戸建ての住宅または集合住宅
- 容量が100リットル以上
- 1棟につき1基に限る
(集合住宅は2基まで。申請者は管理人または管理組合とする)
- 助成金は材料費および施工費の合計の2分の1または30,000円(上限)のいずれか少ない額とする(1,000円未満切り捨て)
【例1】費用26,000円の場合…助成金13,000円 本人負担13,000円
【例2】費用62,000円の場合…助成金30,000円 本人負担32,000円
- 検査(現場確認)において合格のもの



設置助成の手続き

- 下水道課へ申請書の提出
- ↓
- 下水道課からの回答
(助成条件に適合しているか審査のうえ、設置助成決定通知)
- ↓
- 設置工事(個人で実施)
- ↓
- 下水道課に完了報告書の提出
- ↓
- 下水道課が検査後、同課から回答(助成金確定通知)
- ↓
- 助成金の支払い(申請者指定口座へ振り込み)

現在までの設置数

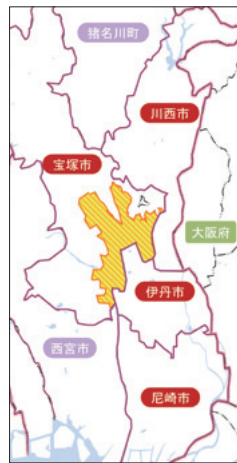
平成16年度	2基
平成17年度	41基
平成18年度	21基
平成19年度	26基
平成20年度	34基
平成21年度	38基
平成22年度	30基
平成23年度	34基
平成24年度 (11月30日現在)	40基

累計 266基 目標 1,000基

上下水道局下水道課 (☎77・2023)

ウメ輪紋病まん延防止にご協力を

阪神間で、ウメやモモが感染するウメ輪紋病が発生しています。同病のまん延を防止するため、2月10日(日)から、右記①の植物が②の地域で移動が禁止されます。



- ①植物=サクラ属(ウメ、モモ、スモモ、セイヨウスモモ、アンズ、ネクタリン、ユスラウメ、オウトウなど)に含まれる全ての植物、セイヨウマユミ、ヨウシュイボタ、ナガバクコの苗・植木・盆栽・切り枝・花・葉など(種・果実は持ち出し可)
- ②地域=安倉北、安倉中、安倉西、安倉南、泉町、伊子志(阪急電鉄今津線以東の地域に限る)、今里町、金井町、亀井町、口谷西、口谷東、御所の前町、寿町、小浜、高司、高松町、東洋町、長尾町、中筋、中筋山手、中山寺、中山荘園、中山台、雲雀丘、平井、平井山荘、星の荘、三笠町、売布東の町、南ひばりガ丘、美幸町、山手台西、山手台東、山本台、山本中、山本西、山本野里、山本東、山本丸橋、山本南、弥生町

県農業改良課 (☎078・362・9206)

どなたでも!!

再生可能エネルギーをみんなで考える懇談会

再生可能エネルギーの可能性などについて興味や関心のある人は、どなたでも参加できます。

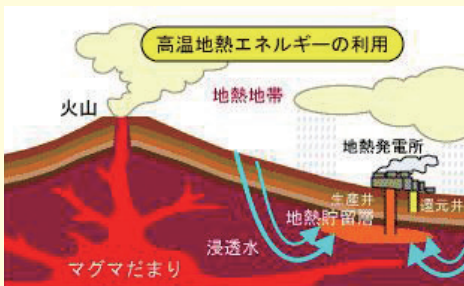
2月11日(祝)14時～17時、西公民館
先着100人(要予約)、市内在住・在勤・在学の人

2月1日(金)～10日(日)に、〒住所、氏名、電話番号を記入し、市ホームページ、ファクス(☎71・1159)で申し込み。はがきの場合は、〒665・8665(住所不要)「市役所新エネルギー推進課」へ(2月8日(金)必着)。

実施予定内容

- ・前回までの振り返り
- ・名古屋大学大学院准教授および本市再生可能エネルギー推進研究会議座長の丸山康司さんによる講演
- ・パネルディスカッション など

新エネルギー推進課 (☎77・2361)



資源エネルギー庁 地熱利用の模式図

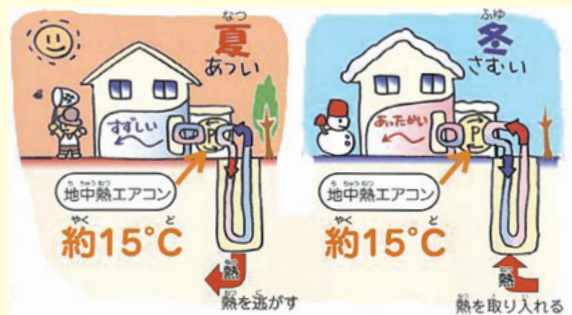
こへ井戸を通すことができれば、井戸から高温の蒸気が噴出します。その蒸気そのものや蒸気の温度を利用してタービンを回転させるのが、主な「地熱発電」の原理です。安定的に高い出力を出せる(設備利用率が高い)発電方法ですが、候補地の多くは国立公園内にあることや初期費用がかさむことなど、実

考えよう! 広めよう!
「新エネルギー」シリーズ目

新エネルギー推進課 (☎77・2361)

今号は、地中のエネルギー利用について紹介します。火山列島と呼ばれる日本の地下には高温のマグマだまりが多く存在し、地下水を熱水に変

住宅などでも、地中の熱を利用する方法があります。「地中熱ヒートポンプ」と呼ばれる、主に空調に利用されるシステムです。このシステムの狙いは、地中の温度を活用することです。夏、地中の温度は地上よりも冷たいため、地中15～30m程度までパイプを通し、不凍液などを流して循環させ、その液を通して地中の冷たい温度を最終的に室内まで伝えます。冬は逆に、地中は地上よりも暖かいため、同じように暖房の熱源として利用できます。こういった自然界に存在するエネルギーを利用することで、枯渇性資源に依存しない社会の実現に貢献することができます。



環境省資料 地中熱ヒートポンプ